

(別紙1)

## 令和2年度堅果類豊凶調査の結果（長野県）

### 【樹種別】

樹種	豊凶の状況	
ブナ	大凶作～不作 (R1：大凶作～不作)	県内すべての箇所で作以下、着果が少なくなっている。
ミズナラ	大凶作～豊作 (R1：大凶作～大豊作)	地域により豊凶のばらつきが大きいものの、一定程度の着果が認められる。コナラよりミズナラの方が着果の良い箇所が多い。
コナラ	大凶作～豊作 (R1：大凶作～大豊作)	
クリ、クヌギ等	並作程度 (R1：並作)	クリは、ばらつきがあるものの、全県で並作程度の着果が認められる。クヌギは、ばらつきがあるが着果の多い箇所が見られる。

### 【地方別】

地方（地域）	豊凶の状況
東信（佐久、上田地域）	地点ごとのばらつきはあるものの、ミズナラ、コナラの着果は一定程度みられる。
南信（諏訪、上伊那、南信州地域）	地点ごとにばらつきが大きく、南信州地域はクヌギ、クリに豊作が見られるものの、ブナの着果が少ない。上伊那地域はミズナラ、コナラの着果が少ない。
中信（木曾、松本、北アルプス地域）	地点ごとにばらつきが大きいものの、地域全体ではブナを除いて一定程度の着果が認められる。
北信（長野、北信地域）	長野地域ではブナを除き一定程度の着果が見られる。北信地域はいずれの堅果類も昨年より着果が少なく、凶作以下となっている。

### ※堅果類豊凶調査の実施方法

対象樹種：ブナ、ミズナラ、コナラ、クリ、クヌギ、クルミ等

調査方法：①県内各地（令和2年度：79地点、約1,300本）で目視により樹冠全体及び枝の着果状況を確認

②着果状況に応じて樹木ごとに着果度ランクを決定

0：着果無し 1：樹冠一部疎に着果 2：樹冠一部密に着果

3：樹冠全体疎に着果又は樹冠半分に密に着果 4：樹冠全体密に着果

③地点樹種ごとに着果度ランクの平均値を出し、豊凶を判定

着果度ランク平均値	豊凶判定	着果度ランク平均値	豊凶判定
0	大凶作	1.5以上～2.0未満	並作
～0.3未満	凶作	2.0以上～2.5未満	並作上
0.3以上～1.0未満	不作	2.5以上～3.5未満	豊作
1.0以上～1.5未満	並作下	3.5～	大豊作

④判定結果を地域振興局、林業総合センター、環境保全研究所の研究員等が総合的に評価

### 【参考】中部森林管理局による県内国有林の堅果類豊凶調査結果について

樹種及び地域によりばらつきが見られるものの、昨年に引き続きブナは凶作（不作～凶作）、ミズナラは不作（並作下～凶作）、コナラは不作（豊作～凶作）となっています。

○令和2年度 堅果類（ブナ・ミズナラ・ナラ）の豊凶調査結果について（長野県）

URL: <https://www.rinya.maff.go.jp/chubu/press/kouhou/200918.html>